

魅力ある学校づくり地域協議会通信

発行 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

1 「魅力ある学校づくり地域協議会情報交換会及び講演会」の報告について

- ・ 標記研修会（市教委，魅力ある学校づくり地域協議会支援会議共催）が，平成 27 年 1 月 22 日に南図書館サザンクロスホールで，92 名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は，協議会や学校の代表者，地域コーディネーターを対象に，学校運営への参画機能の充実について先進事例を学ぶとともに，各協議会の取組について情報共有し，今後の取組の参考にするための方策について再確認したところです。
- ・ 当日参加された皆様には，研修会を振り返れるよう，また，当日参加できなかった皆様には，今後の活動の参考として，研修会の様子をお知らせします。

第 1 部 講話 「学校運営への参画機能の充実について ～学校評価と熟議を通して～」

国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官 植田みどり氏

- 地域とともにある学校づくりを進めていくためには，「①熟議（みんなでよく話し合い，考えること）」，「②協働（同じ目標に向かって一緒に活動すること）」，「③学校のマネジメント（学校の組織としての力を引き出すこと）」が重要な要素となる。
- 特に，学校運営への参画機能を充実させていく上では，まず，学校をオープンにすること，そして，学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深める「熟議」を行い，学校関係者評価を学校と地域をつなぐコミュニケーション・ツールとして生かすことが必要である。
- 京都市で全市展開する「京都方式」の学校評価は，学校と家庭・地域が足りないところを批判しあうのではなく，互いに高め合う双方向の信頼関係を構築し，子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指して実施されている。また，アンケートについても，当事者意識を高めることができるような内容にするなど工夫した取組をされていることから，是非参考にされたい。〈参考 URL 京都市教育委員会ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/category/>〉
- 宇都宮版コミュニティ・スクールとして進めている魅力ある学校づくり地域協議会は，学校運営への意見・協議，学校評価等を行いながら，地域の教育力を生かした学校教育の充実と家庭・地域の教育力の向上に取り組んでおり，学校を含む地域全体を活性化できる機能を持っている。その機能を活かすため，学校評価を熟議のきっかけとして活用し，学校教職員や保護者，地域住民はそれぞれがパートナーとして，「どう関わっていけるのか」を考え，学校にとって，家庭にとって，また地域にとって Win&Win の関係を築かれない。



第2部 グループ別情報交換

○地域学校園の枠を超え、また小中学校それぞれの特性に応じて話し合うことができるよう組み合わせたグループで、各協議会における①学校評価の現状と課題、②会議運営の現状と課題とそれぞれの改善方策について、意見交換・情報共有を行いました。グループ協議の中での主な意見を紹介します。

① 学校評価（学校関係者評価）について

【学校側の現状】

- ・学校評価の結果を検討する時間的な余裕がないため、学校運営の改善にまでいたっていない。
- ・地域住民アンケートの母数を確保することが難しい。

【地域側の現状】

- ・オープンスクール等の機会を利用してアンケートに回答するが、回答が難しい項目がある。（例えば あいさつ、言葉遣い、学習など）
- ・学校評価は、学校や子どもたちの様子を知るための、よい材料として捉えているが、学校評価の結果をもとに、熟議ができていないため、学校運営に反映されない。

【改善方策】

- ・学校の自己評価の結果を事前に配布し、協議会会議の際に意見をもらいやすいようにする。
- ・学校の様子を知ってもらうため、「学校だより」などで積極的に情報発信を行う。
- ・アンケート用紙を配布する際、学校評価の目的・意義を説明する。

② 会議運営について

【現状】

- ・協議会の会議への出席率が低く、意見の表明が低調である。
 - ・協議会の構成メンバーが固定化している。また、教職員の異動などにより、学校側の体制も変わることもあり、形式的な会議となっている。
 - ・会議内容は、学校からの報告が主となっている。
- また、学校の現状についても、個人情報保護の観点から「言えないこと」が多く、課題改善のための協議が難しい。
- ・会議内容については検討しているが、会議運営における改善点については、改めて検討していない。

【改善方策】

- ・会議の開始時間について、多くの委員が集まりやすいよう、会議内容によって調整する。
- ・会議の中で、各部会ごとに話し合う機会を設けるなど、話しやすい環境と場を作る。
- ・協議会委員に対し、当事者意識を持ってもらえるよう、協議会の意義や会議開催の趣旨を分かりやすく説明する。
- ・会議での意見や結果が具体的な取組に反映できるよう、協議会委員の構成メンバーについて、各地域団体の代表者（会長等）を選任する。

2 活動紹介「コンクール作品の整理」

○横川東小地域協議会では、地域の人々や保護者で構成するボランティアサークル「たぶりえっぺ」があり、毎週水曜日に活動しています。学校からの要望もあり、夏休み明けには、子ども達が作成した各種作品を整理しています。「できることをできるときに」をモットーに、名簿のチェックなどの簡単な作業から作品の梱包・送付まで、お手伝いしています。

